

# 1 年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
4 月	はるが きた 2 時間（話・聞②） ◎互いの話に関心をもつことができる。（思・判・表A(1)オ） ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ■絵を見て話したり応答したりする。 ☆学校生活（生活科）	1～2	1 P0-3の挿絵を見て、何をしているのか、気づいたことや想像したことを話す。 2 P4-7の挿絵を見て、気づいたことや想像したことを言ったり、絵の中の人物になりきって話し 3 P8を教師に合わせて声に出す。想像したこと等を話す。	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。（(1)ア） 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもっている。（A(1)オ） 【態】進んで友達の話に関心を持ち、これまでの経験をいかして話したり応答したりしようとしている。
4 月	さあ はじめよう おはなし ききたいな 2 時間（読②） ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。（知・技(3)エ） ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ■読み聞かせを聞いて楽しむ。 なんて いおかな 2 時間（話・聞②） ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うことができる。（知・技(1)キ） ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さを工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ） ■場面に応じた言葉や動作を考えて、伝え合う。 ☆先生や友達などの多くの人と親しみをもって関わって学校生活を楽しむことや、場に応じた挨拶に関わる題材（道徳）	1  2  1～2	1 教科書の絵を見て、読み聞かせをしてもらった体験を想起し、自分の好きな本を発表する。 2 教科書で紹介されている本の読み聞かせを聞き、感想を発表する。 3 教師の選んだ本や、読んでもらいたい作品を選んで、読んでもらう。 4 読み聞かせを聞いて、本や作品の内容について感想を発表する。  1 P12-13の絵を見て、何をしてどんな話をしている場面なのか出し合う。 2 それぞれの場面に合った言葉や動作を考えてやり取りしたり、発表したりする。 ・教師に対する言葉遣いと友達どうしの言葉遣いの違いを考える。	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。（(3)エ） 【思・判・表】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（C(1)オ） 【態】積極的にいろいろな本を手に取り、これまでの経験をいかして読む。 【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。（(1)キ） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さを工夫している。（A(1)ウ） 【態】経験を基に積極的に言うことを考え、学習課題に沿って自分の考えを伝えようとしている。
	かく こと たのしいな 1 時間（知・技①） ◎平仮名を読み、書くことができる。（知・技(1)ウ） ・姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くことができる。（知・技(3)ウ） ■正しい姿勢や鉛筆の持ち方を意識して書く。 ☆正しい姿勢と鉛筆の持ち方（書写）	1	1 P14の唱え歌を唱えながら、鉛筆の正しい持ち方を知る。 2 P15の唱え歌を唱えながら、正しい姿勢を知る。 3 正しい鉛筆の持ち方や正しい姿勢に気をつけてP14-15の挿絵をなぞる。 4 一画の平仮名「く」「つ」を書く。 5 ワークシートを使って練習する。	【知・技】 ・平仮名を読み、書いている。（(1)ウ） ・姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書いている。（(3)ウ） 【態】正しい姿勢や鉛筆の持ち方で書くことに粘り強く取り組み、自分なりに、字を書く際に気をつけたいことを見つけようとしている。
	どうぞ よろしく 3 時間（話・聞②、書①） ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ○経験したことから書くことを見つけ、伝えたい事柄を明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うことができる。（知・技(1)キ） ■名前カードを使って友達と交流する。 ☆互いを知り、新しい仲間をつくる題材（生活科） ☆好きなものの絵を描く活動（図画工）	1  2  3  1～2	1 P16を見て、友達をたくさん増やすために、自己紹介をし合うことを知る。 2 「い・ち」と組や自分の名前を平仮名で書く。 ・姿勢や鉛筆の持ち方を唱え歌で確認しながらP17に自分の名前を書く。 ・分からない文字は、教師にきく。 3 名前カードを書く。 ・カードに自分の名前を丁寧に書く。（好きなものの絵等を描いてもよい。） 4 名前カードを見せ合い、交流する。 ・挨拶、名前、好きなもの等を伝え合い、たくさんの友達と交流する。	【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。（(1)キ） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（A(1)ア） ・「書くこと」において、経験したことから書くことを見つけ、伝えたい事柄を明確にしている。（B(1)ア） 【態】積極的に自分の名前を書いたり好きなものを考えたりし、これまでの経験をいかして友達と交流しようとしている。
	こんな もの みつけたよ 2 時間（話・聞②） ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うことができる。（知・技(1)キ） ■見つけたものや思ったことを友達に紹介する。 ☆学校探検（生活科）	1～2	1 校内で見つけたものを思い出して、紹介したいことを考えながら絵に描く。 2 絵を使って、自分で見たことや見て思ったことを友達に紹介する。 ・みんなの前で話すときの言葉遣いを考えて話す。	【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。（(1)キ） 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（A(1)ア） 【態】紹介したい事柄を積極的に選び、学習課題に沿って見つけたものをより分かりやすく紹介しようとしている。

## 1 年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	うたに あわせて あいうえお 2時間(知・技②) ◎姿勢や口形、発声や発音に注意して話することができる。(知・技(1)イ) ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。(知・技(3)イ) ■音読する。 ■正しい筆順で文字を書く。 ☆歌を通して正しい発声を身につける題材(音楽)	1  2	1 P20-21のあいうえおのうたを、いろいろな方法で音読する。 ・姿勢、口形、発声、リズム等に気をつける。 ・全員、グループ等いろいろな形態で読む。 ・体を動かしたり、手足でリズムをとったりして読む。  2 P22-23の「あ、い、う、え、お」の文字を指でなぞる。 ・青い部分が一面目であることに気をつける。 ・P22-23のマス目に、筆順に気をつけて「あ、い、う、え、お」を書く。  3 これまでに習った文字を使って言葉を作り、ノートに書いて言葉集めをする。	【知・技】 ・姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。((1)イ) ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。((3)イ) 【態】進んで姿勢や口形、発声や発音に注意し、学習課題に沿って音読しようとしている。
5月	ことばの たいそう 各配当時間を15分ずつなどに分割して扱ってもよい。 こえに だして よもう 1時間(読①) ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ■詩を音読する。 ■想像を広げながら詩を読む。	1	1 詩を声に出して読む。 ・声の大きさやリズムを工夫してはっきりと読む。 2 朝日や海の様子について、想像したことを話す。 3 言葉の響きやリズムに気をつけながら、暗唱する。	【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) 【態】進んで詩に描かれた様子を想像し、これまでの学習をいかして音読しようとしている。
	よく きいて、はなそう 2時間(話・聞②) ◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。(思・判・表A(1)エ) ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) ■応答したり、感想を伝えたりする。	1～2	1 P26-27を読み、教師の説明を聞いて、活動内容を知る。 2 友達とペアになり、好きな遊びについて聞く。 ・P27の挿絵を参考に、話し手を見て話を聞くことを知る。 3 分かったことや感想を、声の大きさや速さに気をつけて全体に知らせる。 4 聞き手と話し手を交代して、2の活動をする。 5 教師と活動の振り返りをする。	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。((1)ア) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A(1)ウ) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ) 【態】興味をもって進んで友達の話聞き、より伝わる話し方を考えながら、みんなに知らせようとしている。
	ことばを さがそう 2時間(知・技②) ◎音節と文字との関係に気づくことができる。(知・技(1)イ) ◎身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ■言葉集めをする。	1～2	1 P28を見て、「あ」で始まる言葉はいろいろあることを知る。 ・手を打ちながら1音節1文字であることを気づき、2文字3文字4文字の言葉等があることを知る。 2 「い」「う」「え」「お」など、既習の平仮名で始まる言葉集めをする。 ・手を打ちながら、文字数を意識する。 ・これまでに習った文字を使って言葉を見つけて、ノートに書く。	【知・技】 ・音節と文字との関係に気づいている。((1)イ) ・身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【態】語句の音節と文字との関係を積極的に理解し、これまでの学習をいかして言葉を集めようとしている。
5月	はなの みち 6時間(読⑥) ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○敬体で書かれた文章に慣れることができる。(知・技(1)キ) ■想像を広げながら物語を読む。 ■物語の音読をする。 ☆動植物や自然に親しむことに関わる題材(道徳) ☆植物の種をまき育てることに関わる題材(生活科)	1  2～5  6	1 教科書の挿絵を手がかりに、場所や季節、登場人物のイメージを膨らませる。 2 教師の範読を聞いて、内容の大体を知る。 ・教師の後に全文を音読する。 3 お話の内容を確かめながら、場面の様子や「くまさん」の行動について考える。 ・挿絵と本文を対応させながら、登場人物の行動や様子を考える。 ・挿絵のワークシートにぬり絵をしながら、季節に気づいたり場面の様子について想像を広げたりする。 4 好きな挿絵の場面を選んで音読する。 ・二人組で音読を聞き合い、感想を伝え合う。	【知・技】 ・敬体で書かれた文章に慣れている。((1)キ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) 【態】興味をもって進んでお話の内容を捉え、学習課題に沿って友達と協力して音読しようとしている。
5月	としょかんへ いこう 2時間(知・技②) ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ) ■学校図書館で好きな本を選んで読書に親しむ。 ☆好きな本を見つれたり、司書の方にかいたりする活動(図書館活用)	1～2	1 学校図書館へ行く。 ・図書館巡りをして、図書館の様子を知る。 ・たくさん本があることに気づく。 2 学校図書館での決まりについて考える。 ・みんなの本であることに気づき、大切に扱うことや静かに読むこと等の約束を知る。 ・読み終わったら元の場所に返すことを知る。 3 読みたい本を選んで、読書に親しむ。	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。((3)エ) 【態】積極的に図書館について知ろうとし、学習課題に沿って読みたい本を見つけようとしている。

## 1 年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
5月	かきと かぎ 2時間（知・技②） ◎平仮名を読み、書くことができる。 （知・技(1)ウ） ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ）	1～2	1 P40の唱え歌を、いろいろな言い方で楽しく読み、濁音に気づく。 2 P41にある単語を、一語一語唱えながら濁音と半濁音の有無を確認する。 ・清音と濁音と半濁音の平仮名をノートに書く 3 濁音と半濁音を含む単語を見つけてノートに書く 4 短い唱え歌を作って、まとめをする。	【知・技】平仮名を読み、書いている。（(1)ウ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） 【態】進んで濁音を含む言葉を見つけ、これまでの学習をいかして文字で表そうとしている。
5月	ぶんを つくろう 4時間（書④） ◎文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ○句点の打ち方を理解して文の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語との続き方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■主語と述語を意識して文を書く。	1～2  3～4	1 P42の挿絵を見ながら、二つの文を読む。 ・主語や述語に注意し、「――が――。」「――は――。」の文型であることに気づく。 ・主語・述語・句点を意識して、P42の文を視写する。 2 P43の挿絵を見て、「――が――。」「――は――。」の文で表し、ノートに書く。 3 日常の生活から、「――が――。」の文をノートに書く。	【知・技】 ・句点の打ち方を理解して文の中で使っている。（(1)ウ） ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。（(1)カ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。（B(1)ウ） 【態】語と語との続き方を丁寧に確かめながら、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
5月	ねこと ねっこ 2時間（書②） ◎促音の表記、助詞の「を」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語との続き方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■促音や濁音のある言葉を使って文を書く。	1  2	1 P44の唱え歌をいろいろな言い方で楽しく読み、促音に気づく。 2 P45を見て、一語一語唱えながら促音の読み方を確認する。 3 P45を見て、促音のある言葉とない言葉を比べながらノートに書く。 4 促音や濁音のある言葉と助詞「を」を使って、簡単な文を書く。	【知・技】促音の表記、助詞の「を」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使っている。（(1)ウ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。（B(1)ウ） 【態】進んで促音や濁音のある言葉を見つけようとし、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
6月	わけを はなそう 2時間（話・聞②） ◎相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。（思・判・表A(1)イ） ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ■自分の考えとそのわけを話す。 ☆わけを説明する題材（生活科・算数）	1  2	1 質問に対して、答えとその理由を伝える言い方を確認する。 ・P47の挿絵を見ながら、質問する人と答える人の二人組になって、P46のやり取りを声に出して読む。 2 P47の挿絵を見ながら、二人組で学んだ話型を使って伝え合う。 3 小学校の生活等で好きなことや楽しみなことを、学んだ話型を使って話す。 ・二人組で交流した後、グループや全体で発表する。	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。（(1)ア） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいく。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えていく。（A(1)イ） 【態】話す事柄の順序を進んで考えながら、これまでの学習や経験をいかして考えとわけを話そうとしている。
6月	おばさんと おばあさん 2時間（書②） ◎長音の表記、助詞の「へ」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語との続き方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■長音のある言葉を使って文を書く。	1  2	1 P48の唱え歌をリズムに気をつけて読む。 ・長音になることで言葉の意味が変わるものがあることに気づく。 2 P49の長音のある言葉を読んだり書いたりする練習をする。 3 長音のある言葉を集めてノートに書いたり、友達と交流したりする。 4 長音のある言葉を使って文を書く。 ・「――へ――。」という助詞「へ」を使った文を書く。	【知・技】長音の表記、助詞の「へ」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使っている。（(1)ウ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。（B(1)ウ） 【態】進んで長音のある言葉を見つけようとし、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
6月	あいうえおで あそぼう 3時間（知・技③） ◎平仮名を読み、書くことができる。（知・技(1)ウ） ◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。（知・技(3)イ） ○姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。（知・技(1)イ） ■言葉遊び歌を楽しむ。	1  2  3	1 P50-51の言葉遊び歌を読む。 ・調子のよい言葉のリズムに気づき、節を付けて歌うように読む。 ・何度も読んで、言葉遊びの歌の仕組みに気づく。 2 自分たちで「あいうえおのうた」を作る。 ・P50-51の吹き出しやP129-131の平仮名表を参考に好きな行を作り、発表し合っている。 3 P52-53の五十音表を読む。 ・口形に気をつけて縦や横に読んだり、各行や列の音の特徴に気をつけて読んだりする。 ・区切ったり伸ばしたりいろいろな声の大きさで読んだりする。 ・P52-53の「しりとり」を参考にして、しりとり遊びを楽しむ。	【知・技】 ・姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。（(1)イ） ・平仮名を読み、書いている。（(1)ウ） ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。（(3)イ） 【態】進んで平仮名の五十音を確かめ、これまでの学習をいかして言葉遊びを楽しもうとしている。

## 1 年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
6月	つぼみ 8時間（知・技②、読⑥） ◎事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)ア） ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ○文章の中の重要な語や文を考えて選り出すことができる。（思・判・表C(1)ウ） ■文章を読んで分かったことや考えたことを伝え合う。 ☆動植物や自然に親しむ題材（道徳） ☆図鑑でいるいるな花のつぼみを見つける	1  2～6  7～8	1 学習の見通しをもつ。 ・花やつぼみについて、知っていることを出し合い、興味をもつ。 ・P54の写真を見て、三つのつぼみからそれぞれどんな花が咲くかを予想して絵に描いてみる。 2 全文を読み、内容の大体を捉える。 ・教師の範読を自分の予想と比べながら聞き、内容の大体を知る。 ・本文と写真とを対応させながら、3種類の花のつぼみについて取り上げられていることを確かめる。 ・それぞれのつぼみについて、「問い」と「答え」を確認し、「答え」の後に、詳しく説明している部分があることを確かめる。 3 いちばん興味をもったつぼみについて、わけとともに伝え合う。 4 学習を振り返る。	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。（(1)カ） ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（(1)ク） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。（C(1)ア） ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選り出している。（C(1)ウ） 【態】積極的に説明の順序を捉えながら文章を読み、学習課題に沿って分かったことや考えたことを伝えようとしている。
6月	おもちゃと おもちゃ 2時間（書②） ◎拗音の表記、句点の打ち方を理解し、文の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語との続き方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■拗音のある言葉を使って文を書く。	1  2	1 P62の唱え歌をリズムに気をつけて読み、「おもちゃ」と「おもちゃ」の言葉の違いに気づく。 2 P63の拗音のある言葉を読んだり書いたりする練習をする。 3 拗音のある言葉を集めて、ノートに書いたり、友達と交流したりする。 4 拗音のある言葉を使って文を書く。 ・語と語の続き方に気をつけて文を書く。	【知・技】拗音の表記、句点の打ち方を理解して、文の中で使っている。（(1)ウ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。（B(1)ウ） 【態】進んで拗音のある言葉を見つけようとし、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
6月	おおきく なった 4時間（書④） ◎観察したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使うことができる。（知・技(1)オ） ■観察したことを記録する文を書く。 ☆植物を観察する活動（生活科） ☆観察時に写真を撮影（ICT活用）	1  2～3  4	1 学習の見通しをもつ。 ・生活科で育てている植物の様子を想起し、「よくみてくわしくかく」という学習課題を確認。 2 どんな観点で観察したいかを出し合う。 ・出し合ったものとP64の観点を合わせて整理し、クラス全体で共有する。 3 観察記録の書き方を知る。 ・P64-65の二つの作例を読み、書かれている観点と書き方の共通点・相違点を見つける。 4 観察記録を書く。 ・生活科で育てている植物を観察し、観点を想起して気づいたことをメモしたり絵に描いたりする。 ・メモを見て、二つの作例の書き方から選んで観察記録を書く。 ・P124を参考に、横書きのカードの書き方を知り、生活科の学習にいかす。 5 書いたものを友達と交流する。 ・交流しながら、友達の観点や書き方との共通点・相違点に気づく。 6 学習を振り返る。 ・いろいろな観点から観察することで、様子を詳しく記録できることを確かめる。	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っている。（(1)オ） 【思・判・表】「書くこと」において、観察したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。（B(1)ア） 【態】植物をさまざまな観点から積極的に観察し、これまでの学習をいかして観察したことを記録しようとしている。
6月	おおきな かぶ 6時間（読⑥） ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ■物語を楽しんで音読したり、劇遊びをしたりする。 ☆人との関わりで協力したり親切にしたりする題材（道徳） ☆練習を撮影した動画をいかした振り返り（ICT活用）	1～3  4  5  6	1 学習の見通しをもつ。 ・教師の範読を聞いて、内容の大体を捉える。 ・P76-77を見て、これからの学習に意欲をもつ。 2 お話の設定と展開を捉える。 ・登場人物と増えていく順序を確かめる。 ・繰り返しや言葉や副詞に着目して読む。 ・繰り返しのおもしろさやリズムを楽しんで音読する。 3 グループで役を決めて登場人物になりきって音読する。 ・動作やせりふを考えて楽しむ。 4 登場人物になりきって劇遊びをする。 ・グループ内で互いのよさや改善点を助言し合いながら練習する。 5 音読や劇の発表をする。 6 学習の振り返りをする。 ・繰り返しや言葉の響きやリズムを楽しみながら、学習したことを確かめる。	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。（(1)カ） ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（(1)ク） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（C(1)イ） ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（C(1)エ） 【態】積極的に登場人物の行動を捉え、これまでの学習をいかして音読や劇遊びをしようとしている。
7月	はをへを つかおう 3時間（書③） ◎助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。	1  2	1 P78の唱え歌を、リズムに気をつけて読む。 ・教師の範読を聞いてから、いろいろな読み方で繰り返し音読する。 ・「は」「を」「へ」の読み方に注意する。 2 唱え歌を視写する。 ・「わ」と「は」、「お」と「を」、「え」と「へ」の使い方に注意する。	【知・技】助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（(1)ウ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）

# 1 年上卷

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	る。(思・判・表B(1)ウ) ■助詞「は」「を」「へ」を使って文を書く。	3	3 P79の文型に合わせて文を作り、発表し合う。	【態】進んで助詞の使い方を確かめながら、学習課題に沿って文を作ろうとしている。
7月	すきな こと、なあに 7時間（話・聞③、書④） ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ◎語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れることができる。（知・技(1)キ） ○相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。（思・判・表A(1)イ） ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ■「好きなこと」を紹介する。 ☆好きなことを知らせる活動（生活科）	1～3       4～6   7	1 学習の見通しをもつ。 ・教科書を見て、「好きなことをともだちにしようかいしょう」という学習課題を確認する 2 好きなことを、グループの友達に紹介する。 ・いちばん好きなことを選んで紹介の準備をする。 ・聞いたことについて、感想を言ったり理由を尋ねたりする。 ・理由を言うと、好きなことが相手によく伝わっている。→自分も好きになる。→自分の好きなこととその理由を書く。 ・P82の作例を視写して、名前を書き方や始まりを1字下げて書くことを知る。 ・視写したものを参考にして、2文で書く。 ・主語と述語の関係や、句読点の打ち方、理由の書き表し方に注意する。 4 書いた文章を友達と読み合っ、感想を交流する。	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。（(1)ア） ・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。（(1)キ） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。（A(1)イ） ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） 【態】粘り強く伝えたいことや表し方を考え、これまでの学習をいかして自分が好きなものとその理由を紹介しようとしている。
7月	おむすびころりん 5時間（読⑤） ◎昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。（知・技(3)ア） ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ■昔話を音読したり演じたりする。 ☆練習を撮影した動画をいかした振り返り（ICT活用）	1～3      4  5	1 学習の見通しをもつ。 ・これまでに学んだ音読について、おもしろかったところを発表する。 ・「おおきな かぶ」での音読や劇遊びを思い出して、音読発表会を知ることを知る。 2 全文について、教師の範読を聞く。 ・内容の感想を発表する。 ・繰り返しや言葉のリズム（七五調）に気づく。 3 お話の内容を捉える。 ・全体で音読練習をする。 ・挿絵を基に、場面の様子や「おじいさん」の行動を読む。 4 グループで音読の練習をする。 ・役割を決めて、役になりきって音読する。 ・音読に合わせて動作をつけて楽しんで演技する。 5 音読発表会を開く。 6 学習を振り返る。 ・他のグループの読み方でよかったところを伝えたり、自分たちのグループを振り返ったります。	【知・技】 ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（(1)ク） ・昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。（(3)ア） 【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（C(1)イ） 【態】進んで昔話の内容を捉え、これまでの学習をいかして音読しようとしている。
7月	こんな ことが あったよ 6時間（書⑥） ◎経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めた確実に読み取り、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。（思・判・表B(1)オ） ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ■出来事や経験を報告する文章を書く。	1～2     3～5  6	1 学習の見通しをもつ。 ・最近楽しかったことを思い出して発表し合う。 ・P92-93を見て、「たのしかったことを、ぶんぶんぶん」と書いてみる。 2 P92の絵日記を参考に、書き方を知る。 ・文章に書く内容（したこと、見たこと、聞いたこと、思ったこと）を確認する。 3 経験したことを知らせる文章を書く。 ・伝えたい経験について、詳しく思い出す。 ・経験したことを絵に描く。 ・「いつ」「どこで」「誰が」「何を」「どうした」等が分かるようにするとよいことを知る。 4 書いたものを読み合い、感想を交流する。 5 学習を振り返る。 ・自分の経験を文章で表し、友達に紹介したことを確認する。	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。（(1)ア） 【思・判・表】 ・「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めた確実に読み取り、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） ・「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。（B(1)オ） 【態】積極的に出来事や経験を思い出して、これまでの学習をいかして日記に書こうとしている。
7月	としょかんとか なかよし 2時間（知・技②） ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知る。（知・技(3)エ） ■図書館に行き、好きな本を選んで読書に親しむ。 ☆好きな本を見つけたら、司書の方にいきいたりする活動（図書館活用）	1～2	1 図書館に行って、読みたい本を見つける。 ・読みたい本の見つけ方を知る。（表紙や題名や本の中身を見る、司書の先生にきく等） 2 読みたい本を選んで読む。 ・おもしろいところや心に残るところを見つけて読む。 3 本を読み終わったら、P95を参考に、読書記録をつける。	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。（(3)エ） 【態】積極的にいろいろな本を手に取り、これまでの学習をいかして本を選びようとしている。
9月	ことばの たいそう 各配当時間を15分ずつなどに分割して扱ってもよい。			

## 1 年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	こえを あわせて よもう 2時間(読②) ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。 (思・判・表C(1)イ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。 (知・技(1)ク) ■詩を音読する。 ☆好きな詩を探して読む活動の継続(図書館活用)	1	1 詩を声に出して読む。 ・リズムを感じながら元気に読む。 ・声の大きさ、速さ、読む人数などを変えて読む。	【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク
		2	2 詩の様子を想像したり、音読して気づいたりしたことを話し合う。 3 工夫して音読する。 ・内容から想像したり感じたりしたことを、自分なりの読み方で読んで音読を楽しむ。 4 指導書付録CDを開き、「いちねんせいのうた」を歌う。	【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) 【態】進んで詩の内容を捉え、これまでの学習をいかして音読を楽しもうとしている。
	みんなに しらせよう 2時間(話・聞②) ◎伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) ○姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。(知・技(1)イ) ○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。(思・判・表A(1)エ) ■知らせたい内容を聞き合う。 ☆話の内容を補うために、端末で撮影した写真などを共有(ICT活用)	1	1 P98を見て、夏休みの経験を話す際の具体的なイメージをもつ。 2 夏休みの出来事を思い出して題材を決める。 3 知らせたいことの内容を考える。 ・P98を参考に、内容や話し方を考えて練習する。 ・視覚に訴えられるよう、写真や絵を用意して発表のしかたを知る。 ・みんなが聞きやすい話し方(声の大きさや速さ)を考える。 ・P98の挿絵を参考に、集中して聞くことを確かめる。 5 夏休みの経験を発表して聞き合う。 ・伝えたいことを工夫して話す。 ・友達が知らせたい内容を聞き取り、質問や感想を伝える。	【知・技】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A(1)ウ) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ) 【態】積極的に話す内容を考え、これまでの学習をいかして、伝えたい相手に応じて声の大きさや速さなどを工夫して話そうとしている。
9月	ことばを みつけよう 2時間(知・技②) ◎身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。 (知・技(1)オ) ■みんなで言葉遊びをする。	1	1 P100-101の表を見て、縦、横、斜めに隠れている言葉を見つける。 ・見つけた言葉をノートに書き、発表する。	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(1)オ)
		2	2 自分で問題を作り、友達と出し合って楽しむ。	【態】積極的に言葉遊びに取り組み、これまでの学習をいかして自分でも言葉遊びを作成しようとしている。
	おはなしを たのしもう やくそく 8時間(読⑧) ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。 (思・判・表C(1)イ) ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。 (知・技(1)ク) ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。 (思・判・表C(1)エ) ■お話を楽しんだり、想像を広げたりしながら読む。 ☆人との関わりや譲り合い等に関わる題材(道徳)	1	1 学習の見通しをもつ。 ・「やくそく」という題名から、連想することや自分の経験等を出し合って、お話に関心をもつ。 ・「おはなしのすきなところをみつけて、こえに教師の範読を聞いて、感想を発表する。」 2 教材文を読み、内容を捉える。 ・題名と作者、登場人物を確認する。(P109で「さくしゃ」という言葉を知る。) ・登場人物の言動を押さえながら、お話の展開を整理する。 ・3匹のその後を想像して伝え合い、お話の余韻を楽しむ。	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) 【態】進んで登場人物の行動を確かめ、学習の見通しをもって声に出してお話を楽しもうとしている。
9月	かたかなを みつけよう 2時間(知・技①、書①) ◎片仮名を読み、書くとともに、片仮名の長音、拗音、促音、撥音などの表記を理解して文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○語と語との続き方に注意しながら、文を書き表すことができる。(思・判・表B(1)ウ) ■身の回りから片仮名で書く言葉を見つけて、読んだり書いたりする。	1	1 片仮名を書く。 ・P110の唱え歌を音読し、その中から片仮名を見つけてノートに書く。 ・P111で、片仮名の長音、拗音、促音、濁音の書き方を確かめる。	【知・技】片仮名を読み、書くとともに、片仮名の長音、拗音、促音、撥音などの表記を理解して文や文章の中で使っている。(1)ウ)
		2	2 身の回りから片仮名で書く言葉を探す。 ・探した言葉を、長音、拗音、促音、濁音に気をつけながら、ノートに書く。 ・P126-127の片仮名表を参考に、片仮名で書く言葉の入った簡単な文を書く。	【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら文を書き表している。(B(1)ウ) 【態】身の回りから片仮名で書く言葉を進んで見つけ、これまでの学習をいかして簡単な文を書こうとしている。
9月	よんで たしかめよう			

## 1 年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	<b>うみの かくれんぼ</b> 8時間（読⑧） ◎文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。（思・判・表C(1)ウ） ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ○事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)ア） ■説明する文章を読み、分かったことを伝える。 ☆自然に親しむ題材（道徳） ☆他の生き物の隠れ方を図鑑等で調べる活動（図書館活用）	1～2   3  4～6   7～8	1 学習の見通しをもつ。 ・「つぼみ」の学習で「問い」と「答え」の文があったことを思い出す。 ・P112-113の写真を見て、海にはたくさんの生き物がいることを経験や知識を基に話し合い、教材に興味をもつ。 ・「いきものがどんなかくれんぼをしているかをしらべて、ともだちに知らせよう」という学習課題を確認する。  2 教材文を読む。 ・最初の「問い」で問われていることを確かめる。  3 生き物の隠れる場所と隠れる方法を確認する。 ・1文目に海の生き物とその隠れ場所、2文目に体の仕組みや機能、3文目に隠れる方法という順序で書かれていることに気づく。 ・内容や構成について気づいたことを交流し、生き物ごとに、読み取ったことをカードにまとめて確かめる。  4 P117の図鑑や科学読み物等から、他の生き物の隠れ方を調べて友達と交流する。 ・興味をもった生き物について「1なにが、どこに 2かくれるためのからだのつくり 3かくれんぼのしかた」を調べる。 ・調べて見つけたことを、順序を考えてカードに書く。 ・P112と同様の問いかけをしながら、友達と交流する。  5 学習を振り返る ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえ	<b>【知・技】</b> ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。（(1)カ） ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） <b>【思・判・表】</b> ・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。（C(1)ア） ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。（C(1)ウ） <b>【態】</b> 粘り強く文章の中で大事な言葉を押さえながら読み、学習課題に沿って分かったことを伝えようとしている。
9月	<b>かずと かんじ</b> 4時間（知・技②、書②） ◎第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書くことができる。（知・技(1)エ） ・語と語との続き方に注意しながら文を書き表すことができる。（思・判・表B(1)ウ） ■数え歌を書く。	1～3   4	1 教科書の数え歌をリズムカルに楽しく読む。 ・数に合わせて、子ブタの鳴き声を入れて読む。 2 数を表す漢字を練習する。 ・読み方が複数あることを知る。 3 身の回りにあるものを数えてノートに書く。 4 P120-121を参考に、折り紙、鉛筆、車などの数え歌を作って友達と読み合う。	<b>【知・技】</b> 第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書いている。（(1)エ） <b>【思・判・表】</b> 「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら文を書き表している。（B(1)ウ） <b>【態】</b> 積極的に数え方に興味をもち、これまでの学習や経験をいかして漢字を使って数え歌を書こうとし